

## 高齢者ケアセンターBernadottegaaden (ベアナドッテゴードン)

### <高齢者住宅付一般特養>

レポート：尾崎 愛

#### ★その人にあった生活が送れる

第二次世界大戦中、レジスタン運動に参加したドイツでの捕虜生活をしていた人たちの老後のホームとして 1976 年に独立法人レジスタンとの捕虜会が設立し運営、2000 年ロスキレ市の運営に移行された。プラエム 60 部屋 31 平米の高齢者住宅である。

施設内をまわり、入所者のお部屋や様子をみさせていただく。施設内には、リハビリの為のプール・トレーニングマシンが置いてあり、入所者の方が利用されていた。又、美容院もあり、入所者の方が行きたいときに行っている。

起きる時間も寝る時間も自分で決められ、お風呂も最低一週間に 1 度、もっと入りたい方は毎日でも入れる為、その人にあった生活が送れている。

お部屋を見せて頂くとベッドとサイドボード以外は自宅から持ってきた物が置かれており、小さなお庭もついていた。

入所者の様子や状況は、パソコン等の機械を使用し管理されている。スタッフの方たちは小さいときからパソコン等の操作の勉強をしている。

#### ★生き生きとその人らしい生活を

施設内は広く、働いている職員の方はせかせかとせずゆっくりとしており、入所者の方の隣に座りお話をされていた。日本では、時間が決まっているため、なかなか



か利用者の方たちと座ってお話しする時間が作れないためすごく新鮮に思えました。

又、入所者の方たちが集まりみんなでお茶を飲み楽しまれたり、パズルをしたりと個々でやりたいことをし、ゆっくりと過ごされ楽しまれていた。

お部屋には、自宅から使用していた物がおかれ、自分の寝たい時間や起きたい時間に自分で決められるため、ここが施設ではなく自宅にいるように思えました。

入所者の方は、自分のことは自分でっており、小さいときからの教育があり、生き生きとその人らしい生活を送れているのだと思いました。又、アフターフォローもありスタッフの方たちは、殆ど残業がなく時間内には上げられるため家族とゆっくりとした夕食の時間を楽しむことができ、自分の趣味にも時間を使えるのはすごく嬉しい事だなどと思いました。